

福島県学校給食研究会 栄養士部会

第90号

平成29年2月1日
福島県学校給食研究会
栄養士部会
発行責任者 赤津由紀子
担当 相双方部

会 報

おいしい給食が楽しみだ！

自分が小・中学生だった頃の給食を思い出してみると、まず毎日パン食でした。焼きそばやスパゲティー、うどん(ソフト麺ではない)なども出ましたが、必ずパンが付いていました。マーガリンはキューブ型で、ガムの包み紙のような銀紙にくるまれていました。当時の基準栄養価は満たしていたのですが、今思えば炭水化物が多かったような気がします。ちなみに、私が入った小学校は、1年生の時から牛乳が提供され、何かと話題になる脱脂粉乳は、幸か不幸か飲んだことがありません。

教職に就いた頃はご飯給食が始まっていましたが、今ほどの回数ではありませんでした。しかし、献立は和・洋・中とバラエティーに富んでおり、格段においしくなったような気がします。そして、昨今では、ユネスコの無形文化遺産に登録された和食のよさが見直されるようになり、給食にもそれが反映されています。

そんな中でも、栄養士さんをはじめ、調理員さんや市町村教育委員会の給食担当者の方々のおかげで、毎日おいしい給食をいただくことが

学校給食研究会相馬支部長

南相馬市立石神第二小学校長 **鈴木 宣雄**

できます。震災前は、盛んに地産地消が叫ばれていましたが、原発事故の影響でなかなか元には戻せない状況の市町村もあるようです。また、食物アレルギーなどへの対応で大変な面も少なくありませんが、安全安心な給食を提供しようと、皆さんが尽力してくださっています。「今日の給食が楽しみだ」と思いながら登校してくる子どもたちに、栄養バランスのとれた給食をおいしく食べてもらえるよう、これからもみんな協力していきましょう。



今年1年間の活動を振り返って

福島県学校給食研究会栄養士部会長 **赤津 由紀子**

今年度の研修会は、去る8月8日に郡山ユラックス熱海において福島県教育委員会、公益財団法人福島県学校給食会よりご来賓の方々をお迎えし盛大に開催されました。多くの会員の皆様のご協力により盛況のうちに終わることができましたことに感謝申し上げます。研修後まとめられたアンケートの結果や役員会で出された反省を生かし、来年度の研修会がさらによりよいものとなるよう準備をしたいと考えています。また、研修会の場が地域を超えた交流の場になるよう工夫をしていきたいと思えます。

部会長になり今までよりさらに強く感じることは、何事をするにも多くの方々に支えられ、

助けられているということです。まずは、一人で悩まずに声に出してみてください。心強い仲間が近くに必ずいるはずです。話を聞いてもらうだけでもストレス解消になりますし、よきアドバイスを得ることもできます。

今年は、夏の猛暑と秋の台風の被害で、野菜の高騰が続いています。献立作成から給食費のやり繰りに頭を痛めている方も多いのではないのでしょうか。野菜の価格が高くなると、加工食品などにも影響が出ることが懸念されます。今後も気の抜けない状況が続きますが、給食を楽しみに待つ子どもたちのためにも気を引き締めて取り組んでいきましょう。

子どもたちの笑顔に出会うために

会津若松市会津若松学校給食センター 栄養教諭 **松谷 祐子**

今日も給食をつくるために、身支度を整え給食室に入って行きます。年間約180日の給食。どんな思いでつくっているのかというと、子どもたちにいつも笑顔で楽しく給食を食べてもらうために、私にどんなことができるのか、どうすればよいのかということです。

まず、給食は特別な食事ではない。家庭の食事と同じという考えです。「給食だから仕方がない」と逃げないようにしています。しかし、どうしても家庭の食事に近づけることができない時もあります。そんな時でも、最大限自分にできることはやろうと努めています。

次に、昔「私つくる人、僕食べる人」というCMが流行しましたが、私は好きではありません。食事というのは、つくる人と食べる人が心を通わせるものだと思っています。ですから、食べる人とつくる人がいっしょに給食をつくり上げることはできないかと考えます。そこで、子ど

もたちが献立を考え、私が給食で実施する取り組みをしています。

最近、子どもたちの様子を見てみると、食べることに興味を持たない子どもたちが増えているように感じます。「なぜこの料理を食べるのか」「この食品は何という名前なのか」「どんな歴史や由来があるのか」など、本当は「食」って楽しくておもしろいものです。その興味を引き出せるような給食づくりを心がけています。

食べることは命をつなぐことですから、食べることを通して、自分はもちろんまわりの人々や自然も大切にできる人に成長してくれるのを願いながら給食づくりをしています。



学校給食会がはたす役割

公益財団法人 福島県学校給食会
常務理事 **古市 正二**

公益財団法人福島県学校給食会は、昭和29年学校給食法の制定を受け、福島県教育委員会の指導の下、学校給食用物資の共同購入がより効果的に行われるための専門組織として設立されたものです。

その後、平成17年の食育基本法の制定、公益法人改革を経て、公益財団法人として県知事の認定を受け、安全・安心な学校給食用食品の提供はもとより食育の推進のため、次のような各種事業に取り組んでおります。

1つは、栄養バランスのとれた質の高い食材や献立を研究・開発し、提供すること。2つには、栄養教諭等の学校給食に関する研究・研修や教育活動等を支援すること。3つには、学校給食情報の発信など学校給食の普及を促進することです。

当給食会は設立当初、学校給食用食品の共同購入が始まりでした。現在、学校給食は食育の教科書であり、子どもたちの健やかな成長を担うものです。学校給食研究会をはじめ多くの関係者の皆様と力を合わせて、学校給食の充実・発展に全力で貢献してまいりますので、皆様の御協力を宜しくお願いいたします。



栄養教諭免許取得の現状と課題

いわき市立三和学校給食共同調理場
栄養技師 **阿部 絵里子**

私は学生時代、栄養教諭免許取得のための授業は履修しませんでした。将来どの分野で働くかも決めかねていましたし、栄養教諭の必要性もそこまで理解していなかったように思います。

しかし、いざ学校栄養職員となり、学校と連携して食育の重要な役割を担わなければならないことを実感し、今後のためにも栄養教諭免許は取っておくべきだと思うようになりました。

私の場合、当時の方部長さんから、他県の教育委員会主催の単位認定講習があるという情報を頂き、「栄養に係る教育に関する科目」はそこで取りました。夏休み期間中だったので、ビジネスホテルに泊まりながら、5日間の集中講義で単位を取得することができました。全国から20名程度の受講生が来ており、仲良く交流することもできましたし、他県の情報も聞くことができ、貴重な経験となりました。残りの「教職に関する科目」は、放送大学で取得しました。働きながら勉強するのは大変な部分もありましたが、現場を知っている今だからこそ納得できる内容も多く、興味を持って進めることができました。

なかなか認定講習等も少なく、受講する機会が限られている現状ではありますが、随時情報収集し、勉強する時間を確保して免許を取得するといいいのではないかと感じます。

スーパー食育スクール事業の取組について

三春町立三春中学校 栄養教諭 齋藤満子

三春町は昨年度から、文部科学省「スーパー食育スクール」の指定を受け、三春中学校を実践校として食育を推進してきました。本事業は、様々な食育の教育的効果を科学的データに基づき検証を行い、その成果を普及啓発するものです。

震災後、原発事故による放射線の影響から屋外での活動制限を受けるなど、本県は肥満傾向児の出現率が全国平均より高い傾向にありました。そこで平成27年度は「震災後の食生活と個々の健康課題に応じた食育の実践」を取組テーマとして、適正体重の生徒数を増やすことを事業目標にかけ取り組みました。取組内容として食生活の実態を把握し、一人ひとりの活動量を測定し、活動量に応じた消費エネルギーをデータ化し、食に関する課題を提示することにより意識化を図ってきました。また、学校給食を基準目安量(portion size)とし、個々の食事量や家庭での食生活の見直しを行い、行動化を促し、個々の実態に応じた適切な食育指導を実践してきました。さらに、親子料理教室や学識経験者の講演会を開催し、食に関わる家庭での意識を高め、生徒の望ましい食環境の整備を図ってきました。

今年度は、昨年度の課題の改善、さらには全

体的に男子の体力運動能力が大幅に落ち込んでいることから「震災後の食習慣・運動習慣の



変化と食育を通しての生活習慣の改善」を取組テーマとし、適切な食習慣と体力向上を通して健康な体づくりを目指した望ましい運動習慣の形成に取り組みました。保健体育科において、体力・運動能力向上につながる身体運動プログラムに取り組みせ、心身の健康と体力の維持増進に努めています。身体測定の結果や食育指導に関わる個人データは福島県教育委員会発行の「自分手帳」に学習の記録として活用し、蓄積したデータから個々の実態を把握させるなど、生活習慣の改善や体力向上への意識付けを促しています。さらに、家庭における望ましい食生活の意識化を図り、望ましい食習慣の啓発を進めているところです。本事業の成果については、研究の一端をリーフレットにし、県内の各小中学校に配布する予定です。各学校の食育の推進につながるよう今後も研究を推進していきます。

二本松市東部学校給食センター紹介

おいしい給食に“笑顔”が似合う

所長 渡辺善行

二本松市東部学校給食センターは、平成28年4月に供用を開始したばかりの新しい給食センターです。整備概要としては、岩代・東和両学校給食センターを統合し、新たに二本松地域の中学校に給食の提供を開始するため、延床面積1,331㎡、最新式の厨房・調理機器を導入整備されました。

受配校は、岩代・東和地域小・中学校・幼稚園、二本松地域3中学校など15校(園)で、約2,200食の給食を提供しています。

本センターでは、連続炊飯器で地元産の米を炊き、和え物室、アレルギー食調理室を完備し、美味しく安全な給食の提供に努めています。また、開所を機に保温・保冷食缶を導入し、適温状態での給食の提供にも配慮しています。

計画時は、調理食数が大幅に増えることから、食材の仕入れ方法・納品業者の指定などの課題

も多々ありましたが、既存の食材納品組合を主体として新規組合加入業者を募るなど努めた結果、スムーズに納品されております。

献立を立てる際は、給食がより身近なものとなるよう、米飯・麺・パンを計画的に取り入れたり、地域の伝統行事食を盛り込んだり、豊富なバリエーションを演出するよう心がけています。平成28年11月には、県の「いただきます。ふくしまさん」の事業に取り組み、いわき海星高校の生徒が漁獲した「カジキマグロ」と、県産の農産物を活用した給食の提供を行いました。

二本松市東部学校給食センターでは、食を通して児童・生徒の豊かな心と身体の育成に資するため、給食がその一助となるよう、職員一丸となって日々の給食提供に取り組んでいます。



調理に携わる私たちの[本気]が、きっと子どもたちに届いていくものと信じています。

平成28年度表彰

文部科学大臣表彰受賞

学校給食功労者

- ・会津若松市立第一中学校
栄養教諭 松谷 祐子

学校給食優良学校

- ・猪苗代町立猪苗代小学校

学校給食優良団体・功労者表彰

学校給食優良団体

- ・会津若松市立湊小学校

学校給食功労者

- ・川俣町立川俣南小学校
栄養教諭 井間 真理子
- ・郡山市立朝日が丘小学校
栄養教諭 大関 三千子
- ・矢吹町立矢吹中学校
栄養教諭 近内 千由里
- ・南会津町立荒海中学校
栄養教諭 横田 みえ子

平成29年度行事予定

- 学校給食施設訪問実施状況点検
5～12月 各施設
- 新規採用学校栄養職員研修「宿泊研修A」
5月22日(月)～24日(水) 磐梯青少年交流の家
- 第12回食育推進全国大会
6月30日(金)～7月1日(土) 岡山県岡山市
- 学校栄養職員専門研修
7月25日(火)～27日(木) 福島県教育センター
- 第58回全国栄養教諭・学校栄養職員研究大会
8月3日(木)～4日(金) 石川県金沢市
- 学校栄養職員経験者研修 I
8月8日(火)～8月9日(水) 福島県教育センター
- 学校給食研究会栄養士部会研修会
8月8日(火) 郡山ユラックス熱海
- 栄養教諭等衛生講習会
9月14日(木)・15日(金) 福島県学校給食会
- 新規採用学校栄養職員研修「宿泊研修B」
9月27日(水)～29日(金) 福島県教育センター
- 栄養教諭・学校栄養職員研修会
第1回 10月12日(木)
第2回 10月13日(金) 福島県学校給食会
- 第68回全国学校給食研究協議大会
11月9日(木)～10日(金) 鹿児島県鹿児島市

福島県学校給食研究会栄養士部会ホームページ

<http://www.f-eiyou.jp>

おすすめ献立や給食だより、食の指導資料など、皆様のお役に立つ内容が掲載されています。ぜひご活用ください。

★ 皆様のご意見やアイデア等お待ちしております。



編集後記

会報発行にあたり、お忙しい中原稿をお寄せいただきました皆様に厚く御礼申し上げます。

来年度も子どもたちの健康な成長を願い、皆で手を取り合って、より良い給食作りに励んでいきましょう。